

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年12月9日(火)

### 《迷い出た1匹の羊、それが私たちです》

いろいろな計画を立てることがあります。でも、そのとおりになるのは易しい事ではないと思います。なぜ、このように熱心な心で計画を立てるのに神様はそれを支えてくださらないのか、疑問に感じることもあります。しかし、遠くを振り返ってみますと私が計画を立てるのではなく、神様のご計画の中に私がいるのが目に入ります。ですからこの頃は、「神様に委ねること、任せること、神様に何かの計画があればそれに従って私が動かされるように。ただ、私が動かされる時、本当に積極的に、気持ちよく、感謝をしながら受け入れる心をお許してください。」と祈っています。

このようなプロセス(過程)を大切にしないと、私たちはいつも不平や不満で信仰生活を過ごしてしまう恐れがあるのではないかと思います。

今日の福音(マタイ 18・12 - 14)に入ってみます。体には力があります。心にも力があります。体の力は食べ物によって生じます。心の力はよい考えによって生じます。よい考えというのは、感謝の心とか、喜びの心、やりがい、肯定的で積極的な心などです。それらによって自分でも気づかないうちに心が強くなります。そのような心の力が出来なかったならば、もしかしたら600年前のたくさんの殉教者は出なかったのかもしれない。私たち信仰者は、信仰という力によって心の力がきちんと築かれます。そのようなことを考えると、今日の福音も次ぎのように解釈することもできるのではないかと考えました。

<迷い出た1匹の羊>、それはどういうものの例えでしょうか。イエス様について信仰の道を歩む中で、そこに喜びがなければ、その道は辛くて負担の多いものになってしまいます。迷い出た1匹の羊というのは、信仰の生活をしていると言いながらも『喜びの心や、感謝の気持ち、誰かのためによいことをしたい気持ち、自分中心ではなく人のためになるうとする心、神様がこのように私を守り喜ばせてくださるといふ神様のみ旨が分かる心』、そういうことを悟らずにいつも悲しい気持ち、仕方ない気持ちで信仰の道を歩んでいる人々をいうのではないかと思います。

私が今までに何度も強調してきたのは、「感謝の心から、初めて喜びが生じ、喜びのうちに必ず希望がある。それが信仰の正しい態度である。」ということです。私たちの信仰の歩み方はどうなのでしょう。本当に喜びのうちに、感謝の心のうちに、いつも希望をもって、できるだけ美しくこの世を見ようとし、傷ついても憎しみより相手の姿を理解しようとする心を持って生きているのでしょうか。嬉しい気持ち、喜ばれる気持ちがなければ私たちの信仰の道は十字架そのものにすぎません。しかし、私たちに信仰の喜び、希望についてある程度の確信が持てれば、十字架はただ十字架ではないことを、その十字架に含まれている宝物が何であるかを分かるようになると思います。

「私は安定した99匹の中の一匹の羊ではなく、迷い出た1匹なのだ」と思いながら生きようとするのが、私たちに一番必要なことではないかと思います。その中でまことの謙遜や、へりくだる態度ができると思います。私は神様の教えをいつもきちんと守っている、だから神様はいつも認めてくださっている、という傲慢さが、もしかすると人を軽んじる心になっているのかもしれない。それは、神様がそのように導こうとしてくださったから道から外れなかっただけなのだと思います。

私たちはいつも迷い出ている羊です。それが私たちです。ですから99匹の群れに入るために、何よりもイエス様に祈らなければならないことを意識しましょう。

ありがとうございました。